

○池谷分科会長 ただいまより予算審査特別委員会建設経済分科会を開会する。

交流推進部所管の議案の審査に入る。

議第1号「平成31年度焼津市一般会計予算案」中、交流推進部所管部分を議題とし、当局の説明を求める。

（当局説明）

○池谷分科会長 当局の説明に対し質疑・意見のある分科会員の発言を許す。

○川島副分科会長 何点かお伺いしたいと思います。

まず、説明資料の34ページ、ホバートとの交流ということで、昨年大きな節目を迎えて、交流がなされましたけれども、今後の新しい交流の仕方とございますか、さらにそうした交流の太いパイプにしていくためにも1つ御提案をしたいのが、今、学生さんを派遣したりというような形の交流がメインでずっときておりますけれども、これからはもっともっと焼津市民の皆さんがホバートの地に足を運ぶというような発想の交流はどうか。旅行代理店さんともさまざまなタイアップをして、メインはホバートとの交流なんだけれども、オプションでオーストラリア旅行があるよというような形の取り組みでやると、結構ホバートに興味をお持ちの方っていらっしゃるんですね、市民の方でも。だけど、自分はそういう場所に行く機会がない、何かそういう儀式があっても、偉い方たちには交流をして、市民はどういうことをやったんだという記事を見るだけというね。ですから、ホバートという場所がなかなか、市民の方たちにとってみると、よくわからない、遠い場所みたいなね。そういうような形の感覚をまだまだお持ちの方が。でも、興味はあるという方が結構いらっしゃるんですね。

そういう意味では、いわゆる旅行的な感覚ではありますけれども、そういうところから市民が交流をしていく、また、いろんな関係団体としての現地との交流とか、いろんな交流のパイプをつくってあげるみたいな、そういうようなことが仕掛けとしてできないかなというところを、もし今後の発想、予定としてお考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

それから、2番目に、ページでいうと説明資料の128ページ、ユニバーサルツーリズムの件でございますけれども、これからユニバーサルツーリズムというのは非常に大事な部分になってくるのかなと。こういうところを、しっかりと受け入れ体制をしてあげると、もっともっと交流人口というのはふえてくると思うんですけれども、もし、今回モニターツアーの実施ということで、具体的にどのようなお考えのもとで今後やっていかれるのか、お聞かせ願いたいと思います。

それから、3点目に、説明資料の188ページ、ディスカバリーパークの天文科学館についてですけれども、一応松本零士さんが名誉館長になっていただいておりますけれども、実際に名誉館長がディスカバリーに来られるというのはなかなか大変なことだと思いますけれども、そのところをもっともっと、市民との接点みたいなものをつくっていただけないかなと。交流イベントみたいなものをもしてお考えであれば教えてもらいたい

と思います。

特に今、アニメキャラクターブームといいますか、やっぱりせつかく松本零士さんとの接点があって、『銀河鉄道999』みたいな、そういうイメージキャラクターがありますので、そういったものが、お金の問題も当然かかりますけれども、うまく利用できないものかなというところも、もうちょっと、もしお考えがあればお聞かせ願いたいと思います。

以上です。

○渡辺文化・交流課長 川島分科会員の御質疑にお答えいたします。

ホバートとの交流でございますけれども、現在、分科会員がおっしゃるように、学生交流がメインで今、交流をしております。そして、平成31年度は新しく学生さんのサッカー交流、そして、ホバート側から提案がございまして、産業交流というものを現在検討しているところでございます。

分科会員が御提案してくださいました、市民同士の、興味のある市民の方がホバートに足を向けていただくような交流の仕掛けということですが、今後こちらのほうもホバートとの交流について、市民レベルで、民間レベルでの交流をいろいろと考えておりますので、その仕掛けを考える中で研究をしていきたいと思っております。

以上でございます。

○石原観光交流課長 それでは、私からユニバーサルツーリズムの件について御答弁させていただきます。

分科会員の御指摘のとおり、障害者ですとか高齢者とかを問わず、観光の受け入れ体制をつくるということが観光交流人口の増加につながるというふうに我々も考えておまして、来年度、初めてこういった障害者を対象にしたモニターツアーをやってみようということで企画をさせていただきました。

一口に障害者と言いましても、障害の種類、程度もさまざまございまして、それを一くりに障害者の受け入れというふうにはなかなかいかないと思っております、来年度はまず、聴覚障害者の方のユニバーサルツーリズムをやってみようということで、現在、焼津ろうあ福祉会に御協力をいただきながら、どんな受け入れ体制をつくったらいいか、どんなところを御案内したらいいかというようなことの商品造成などを今、協議しているところでございます。

今、予定しておりますのは、全国から1泊2日で焼津に来ていただきまして、ろうあ福祉会、それから手話通訳団の御協力のもと、手話通訳をしながら観光案内をするというようなのをやってみたいと思っております。いらっしゃった方には感想ですとか、いろんな気づきを、アンケートをいただきながら次の取り組みに反映していくと、そんなものをまずやってみたいと思っております。

以上でございます。

○小長谷焼津市振興公社常務理事 松本零士さんですが、うちのほうの名誉館長をやっております、一昨年ですか、20周年をうちが迎えたときにできれば来ていただきたいということで、東京のほうに何度か足を運びましてお願いをさせていただいたんですが、やはり高齢でございまして、80歳を超えているということで、なかなか都合がつかなくて、そのときはビデオメッセージをいただいて、20周年の記念式典のときにはビ

デオメッセージを流ささせていただいたというような経緯がございます。昔は、もう少し若い間は、松本先生もかなり積極的な方だものですから、いろんなどころに出ておられて、うちのほうにも何回も記念講演に来ていただいております。今後、記念的なものがあれば、ぜひまたうちのほうにお越しいただけるようなことも考えていきたいなと思っております。

それこそ、昨年盗難事件がありましたけれども、あの際は松本零士先生がまだ人気があるということで、かなり昔のファンが結構多くいらっしゃるものですから、原画の版画を百貨店で販売を兼ねてこっちへ来られるということもあって、うちが20周年ということもあって、それこそ寄附をさせていただいたと。残念ながら盗難に遭いまして、その後見つからないんですけれども、その際は教育長とともに出向いて挨拶をさせていただいて、今後もよろしくお願ひしますというような話をさせていただいておりますので、機会があれば、御体調がよければまたお願ひをしたいなというように考えております。

○川島副分科会長 ありがとうございます。

特に松本零士さんについては、大変に影響力の大きい方でいらっしゃいますし、せっかく焼津市とのパイプがあるわけなものですから、私は常々、そういうパイプって非常に大事であって、例えば存命でも、小泉八雲さんのようにもうお亡くなりになった方でも、やっぱり後世にその影響というのは残っていくものですから、例えば、松本零士さんを名誉市民に顕彰するとか、そういうような、しっかりとくさびを打つような関係性の強化をして、今後またいろんな展開が期待できるような関係性をつくっていただくとさらにいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○杉崎分科会員 それでは、質疑させていただきます。

まず最初に言っておきたいのだけれども、今、御説明いただくときに、前年度予算と今年度予算のところで大きな差が出ているもの、たくさんありますよね。これはどの部署にも言えることなんでしょうけれども、それが、こんなことでこういう金額になりましたよというのをちょっと補足で入れていただくと理解が早まると思いますので、また参考にしていただければと思います。

それでは、予算書のほうの152ページ、説明書のほうの121ページ、中心市街地のインフォメーション、駅のところですね、313万6,000円の予算が組まれているんですけれども、ここ、変えてああいうふうに新しくリニューアルしたばかりなんですけれども、今後このままの状態、あの状態を維持することを考えているのか、スペースができればもっとほかのところにほかの展開を考えていくのかというのをお聞かせ願ひたいと思います。

今、ちょうど川島副分科会長のほうからも話があったんですけれども、時々天文館のコマercialも出るときに松本零士さんの絵がぱっと出たりします。絵というかポスターね。今度は常設的に、このインフォメーションのところにもそういうものでばしっと入れておくと、何かイメージ的に出てくるんじゃないかと。日本全国を見てみて、松本零士さんが名誉館長を務めているようなところはたくさんあるんですが、全部は行っちゃいないんですけれども、そうすると、駅におりたらあるとか、バスの中に零士さんのポスターを張ってあるところがあるとか。でも結構高いらしいもんで、その辺はちょっ

と大変なんです。そういったことで、このインフォメーションの広がりというか、そういうのをやっていただけたらと思うんですが、それをお聞きしたいと思います。

次に、154ページ、説明書の125ページなんです。観光プロモーション、これ、予算で2,129万6,000円となっているんですけども、この辺、映画でやるのか、最近はやっている地域コマースというか、ああいうイメージでやるのか、その辺をちょっと細かく教えてください。ここも聞いていきたい。

次に、184ページで、説明書の175ページ、こどもの芸術体験事業費、100万円の予算で組まれております。この計画内容を教えてください。

- 石原観光交流課長 まず、インフォメーションでございますけれども、確かに私どもから見ても、現状手狭というか、正直1人の人の配置しかできないような状態でございます。本当はあそこに複数の方がいて、駅前の観光協会ですら今やっている観光案内の機能を全面的にあそこで行えるぐらいの展開ができたほうがいいのかというふうには思っておりますが、いずれにしろ駅との調整の関係で、スペースが今のところは確保できないということで、しばらくは現状の成果を分析しながら考えていくしかないかなというふうに思っております。

確かに、今、御指摘いただいた松本零士さんの絵がある駅があるよということで、私もどこか、たしか横浜線の青学のある駅のあたりだったと思うんですけど、駅をおりと大きく松本零士さんの絵があったりとかということでPRされていまして、そんなものも参考にしながら、今後の観光プロモーションという観点で活かしていきたいと思っております。

そのプロモーションの関係ですけれども、今回計上しました2,129万6,000円の内訳としまして、約1,000万円が、鰹三昧とか鮪めぐりといった食のイベントを今までばらばらに展開していたものを、それぞれの経費をここに集約しまして、一括して我々のところでコントロールしていくような、そんな仕組みにさせていただいたということで、この費用が少しふえています。

あと残りの半分ぐらいは、純粋な、そういった食を中心にした、さまざまな媒体を使ったプロモーションを考えてございまして、実は今年度も温泉が故障したことを機に補正予算をいただいて、そういった展開をしてきましたけれども、紙媒体だけではなく、できればテレビとかも使ったり、あとウェブのプロモーション、インターネット広告みたいな、そういったものも含めて、まだ我々、そのノウハウが少ないものですから、さまざま展開する中でより効果的な手法を開発していくというか、そんな視点も持ちながら取り組んでみたいと思っております。

以上です。

- 渡辺文化・交流課長 杉崎分科会員の質疑にお答えいたします。

こどもの芸術体験事業についてでございます。今年度策定中の焼津市文化振興計画に基づきまして、子どもが芸術に触れることで、情操を豊かに育て創造性を高めることを目的に、芸術の体験事業を開催することを予定しております。

中身ですけれども、小・中学生を対象にしたダンス等のワークショップ、あと、学校とも連携しまして、こころの劇場、あと、乳幼児が対象で、パパと一緒に初めてのコンサート、そういったような事業を現在企画しております。

以上でございます。

○杉崎分科会員 ありがとうございます。

2番目、ちょうど今、石原さんが言ってくれた食を中心にしたプロモーションをやっ
ていきたいという、これ、よくテレビなんかで見ていると、地域が自分のところの地域
おこしのなのをつくっていますよね。あれはもうテレビ対象で、ネットにも出るものも
あるんですが、そういったことで、市内にちょうどある高校とか大学に声をかけて、あ
なた方、ひとつこういうのを学校でちょっと提案してみませんかというのを持っていつ
て、子どもたちを中心に焼津市を宣伝するような、時間も決められたもので。それがネ
ット上で配信されるものなのか、どうなのかわからないんですが。

あともう一つ、インスタ映えって、最近、何か景色だったりいいアクションがあった
のを写してたくさん見る人がいるという、そういう人たち、若い人たちに求めてやって
いくと、それが今度大人に広がったりする可能性もあるものですから、刺激をさせる意
味でも、させるという言い方は失礼なんですけれども、刺激をしていただく意味でもそ
んなところをちょっと進めていただければなど。この100万円じゃちょっと足りないか
もしれないですけどね。100万円じゃないつけ、2,129万6,000円だっけ。この中ではち
よっと苦しいものがあるかもしれないんですが、そんなことをまた今後考えていただき
たいなと思います。

今の文化振興の計画の関係なんですけれども、民間の団体でかつて、団体じゃない、
個人でやっていたのかな、京都の狂言を呼んでやっていらっしゃるのがあって、私もそ
れを復活させようと思ったんだけど、ちょっと金がかかり過ぎちゃうものですから。要
はこの中でいう、ワークショップのものとかコンサートとか、きっかけ的には非常にい
いものだから、この辺はどちらかというと小学生くらいの子から体験させていくとい
うのが大事で、その文化に目覚めさせることで、今、焼津が非常にやっている歴史文化
のとかロマンがあるという、その辺を浸透させるためにぜひ力を入れてやっていただき
たいなと思います。とすると、この100万円の予算では苦しいところがあるものでは
から、皆さんの力で、こういう計画があるということで、次年度に期待していますので、
予算をたくさんとって、そういう展開をしていただければなと思います。よい実績を残
していただければと。お願いします。

○池谷分科会長 何か、部長、ありますか。

○飯塚交流推進部長 応援メッセージありがとうございます。

それこそ当部、今年度から新しい部として、観光、それから文化、スポーツという形
で一体となって交流人口の拡大という形を目指してございます。そういう中でそれぞれ、
スポーツ推進計画、文化振興計画、それから観光につきましては観光ビジョンというも
のもございまして、それぞれの部門別の計画がございまして、それにあわせて来年度、
また、ここに描いた将来都市像であるとか、理念を実現するための、今不足しているプ
ログラムを作成中でございますので、そういった中で活かしていきたいという形でご
ざいます。

また、プロモーションにつきましても、観光協会さんも力を入れていただいております
ので、連携しながらやっていきたいと。それから、文化につきましても、文化団体さ
んと協力してやっていきたいという形で考えておりますので、ぜひよろしく願いいた

します。

以上でございます。

○秋山分科会員 幾つか伺いたいと思うんですけど、その前に、部の名前としては交流推進部ということなんですけど、この交流というのは、市内のいろんな市民同士の交流というものも含めてなのか、交流人口1,000万を目指すというのがあったと思うんですけども、それは県外、市外、国外という、そういうもので交流推進部というのか、そこをちょっと確認したいんですけども。市内の交流を活発にするというのも事業として枠の中にあるというふうに受けとめればいいのでしょうか。

○飯塚交流推進部長 秋山分科会員の御質疑にお答えします。

交流推進部という形で、その交流という形にはいろいろな定義があると思います。通常でいいますと、交流人口、それからそれに相反する言葉としましては、定住人口という形がございます、定住が焼津市内に住んでいる人、交流人口というのが一般論でいいますと外から来る人という意味合いがございます。ただ、今回うちのほうで目指している交流につきましては、そういう外から来る人だけではなくして、そういった人たちを交えて交流を深めてまいりましょうという意味もございますので、さまざまな交流という形で焼津市を、地域資源を活かしながら焼津市の活性化を目指していきたいという形でございます。そういった意味でさまざまな交流があるという形で御答弁させていただきます。

以上でございます。

○秋山分科会員 ありがとうございます。

それでは、先ほど川島副分科会長からユニバーサルツーリズム推進についての質疑がありましたけれども、歳入でいうと70ページ、歳出でいうと154ページですね、予算書の。説明書で128ページ。これで次年度は、耳の不自由な方をモニターツアーで、それから次の取り組みにつなげていきたいというお話だったので、すごく私もいい取り組みだと思うんですけども、さっきおっしゃったような定住、市民の、ユニバーサルデザインといえば、さまざまな障害、社会がつくっている障害というものも取り除いていこうというのがユニバーサルデザインとしての理念だと思うものですから、例えば言語のもの、外国人が4,000人という人口、そうすると、今市内にいる外国から来た方が、向こうからの観光客に声をかけて、呼んで、一緒に観光を楽しむということも十分可能性があると思うんですね。実際に韓国から来ている方が自分の友達たちに焼津を案内したいということで、いろいろ活動しているというの情報がありましたので、そういう方向に、次年度は50万円ということで、そのツーリズムということでもありますけれども、そういったことも見据えて今後考えていただけるようなことはいかがでしょうか。

○石原観光交流課長 秋山分科会員の御質疑でございますけれども、当面は障害者ですとか、そういう物理的などころを対象に、少し条件整備をできたらいいなというふうに思っていて、もともとは検討させていただいてございます。

ただ、御指摘のとおり、外国人、焼津にいらっしゃる方が、またその自分の友達などに来てもらうなんていうのはまさに有効な話でして、観光の要素としましては、風光明媚なところに行きたいとか、おいしいものを食べに行きたいとかいろいろあるんですけど、その1つにやっぱり知り合いに会いに行くというのも大きな観光の要素としてござ

いまして、まさにそれを市内の外国人だけに限らず、もともと縁が遠くにあるような人も自分の遠くから知人を呼んでいただくみたいなことが外国人も含めてできれば、まさにユニバーサルな形になるかなと思っております。そういったことをやるために、何が障害になっていて、何を取り除かなきゃいけないかということをもた勉強してできるようにしていきたいと思っております。

以上でございます。

○秋山分科会員 では、次に、説明書でいくと190ページ、ラジオ体操費ですね。先ほど杉崎分科会員からも指摘があったんですけども、前年から30万円以上減額になっていたかと思えます。これはどういう、これからラジオ体操というのがどういうふうに展開していくのかなというので。

○松永スポーツ課長 まず、金額ですけれども、いわゆる前年度予算が96万8,000円に對しまして本年度予算額が60万3,000円ということで、約36万円ほどの差額がございますが、こちらにつきましては、平成30年度、今年度につきましては、全国の夏期巡回ラジオ体操という、いわゆる夏休み期間中に全国をラジオ体操が順番に回ってくる事業があるんですが、それがNHKの主催事業でございますが、それを焼津市で開催するということが一番大きな事業ということでありましたので、それが毎年ではなくて10年に1回ほど回ってくるものですから、静岡県の中で順番でということ、たまたま平成30年度につきましては、焼津市で開催したということがございまして、来年度予算額については例年並みに戻る格好でございます。

ラジオ体操そのものにつきましては、今現在、小学生を対象にした指導講習会でありまして、一般の方を対象とした指導者講習会等がありまして、ラジオ体操につきましては、まさにスポーツの基本中の基本といえますか、準備体操でかなり活用されているところもありますので、また、あと会社の始業時間に体操をやってからということもございまして、焼津市全体として見れば、より多くの方にラジオ体操を通じて健康を維持していただくということを目的としておりますので、その方向で展開をしていきたいというふうに考えております。

以上です。

○秋山分科会員 おっしゃるように、本当に基本中の基本で、誰でもできて、しかも効果的というものがあるので、ラジオ体操をもう一度見直して、講習するだけでなく、いろんなところでこんなやり方があるというような取り組みやすい指導といえますか、そういう方向に持っていただければと思います。

もう一点、モンゴル国に関して、いろんなプランを伺いました。先ほど、交流推進部としての事業として国際交流もあるけれども、国際協力もあるというふうになっていると思います。モンゴルから選手たちが来て、いろいろなセレモニー的なものもあるかと思うんですけども、そういうイベント的なことの計上が中心になっているんですけども、実際にモンゴル国と、私たち日本と、経済状態といえますか、環境が非常にモンゴルは厳しい状況にありますよね。スポーツ選手たちのためのモンゴルとしての予算といえますか、それが厳しくてというようなドキュメンタリーを以前放映されていまして、それはレスリングのモンゴルの選手たちのことだったんですけども、焼津市で市民にモンゴルに対する支援の機運を醸成するということの1つとして、そういったモンゴル

の選手を支援する基金ですとか、何か募金ですとか、そういったきっかけをつくるというのも非常にお互いの国際協力的なところでも考えられるんじゃないかなと思うので、これからプログラムをいろいろ組み立てる中で、ぜひ提案としても検討していただければと思いますが、いかがですか。

○飯塚交流推進部長 秋山分科会員にお答えします。

来年度、それから今後につきましても、モンゴル国とのさまざまな交流をさせていただきたいという形で考えております。特に、来年度につきましては、オリンピック、パラリンピックが1年前という形になりますし、本番に向けてスポーツ競技のあらゆる支援のほうをさせていただきたいと。

それから、市民レベルといいますか、そういったホストタウンとしての交流もしていきたいという形で考えておりますので、またモンゴル国の関係のスポーツ団体様、さまざまな、あとスポーツ庁の御意見をお伺いしながら、御要望等もお伺いしながら、市のほうで応えられる部分につきましては応えていくという形で、支援という形になりますが、それにつきまして、検討といいますか、要望をお聞きしまして進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

○増井分科会員 予算書の190ページ、説明書も同じく190ページ、スポーツ教室費の件なんですけれども、ちょっと大きな減額がされております。基本的に教室そのものはそれぞれの人数よりもそういった来るためのチャンスを与えるといった部分が非常に重要ではないかなというふうに考えておりますが、この削減された金額、何が削減されて、また、その理由は何なのかを教えていただければと思います。

○松永スポーツ課長 スポーツ教室費につきましては、先ほどの説明の中で申しました体操、それから水泳、太極拳と大きく3つの種類がございまして、その中で水泳の教室でございますが、現在水夢館で行っております。水夢館の管理運営を指定管理者のほうでお願いしているわけなんです、そちらの自主事業の中でも水泳教室が開催されております。そういったこともありまして、水泳教室の一部を指定管理者の自主事業のほうに組み込んでいただくという形で予算をその分削っております。

以上です。

○増井分科会員 了解しました。

○杉崎分科会員 先ほどの秋山分科会員のほうの話のモンゴル国との交流という関係なんですけれども、小学生が絵画を、モンゴル国の、あそこは小学校から高校まで一貫教育でやっているようですけれども、その国立小学校へ送って、そのお返しに、今度向こうで子どもたちが描いた絵をここへ持ってきてというので、プレゼント式みたいな、先日、東益津小学校で行われたんですけれども、そういうのもこの部で担当するのかなというのと、それと、もう一つ、島田に今いらっしゃいますよね、広くモンゴルの宣伝をやっていらっしゃる方が。あの方なんかを焼津の何かの契約的なことでやっていらっしゃるのか。この中で読み取れないものですから、その辺をお聞かせください。

○渡辺文化・交流課長 モンゴル国の小学生と日本の焼津の小学生との絵画の交換の交流なんですけれども、これは焼津市にありますワールドプラザという国際友好協会のほうが主体となってやっております。

ただ、スポーツ課の通訳の職員も協力をして現地に行ったりしておりますので、うちのほうのホストタウンの事業の中で協力体制を持って推進しておりますので、全く焼津市と関係ないわけではなくて、協力、連携をしてやらせていただいております。

あと、島田の方というのは通訳さんのことですか。

○杉崎分科会員 わからなかったらいいです。

今、民間のと秋山分科会員のほうからお話があったものですから、市が直接的にその計画に入らなくても、民間でそういう交流もやっているよと、そういうところは側面的に支援していくよということで、予算の中に余裕を持って入れれば、途中で発生しても使えるようなお金が出てくるという、今、発想的にはそんなことを考えたものですから。なので、民間の団体のほうも支援していただければということで、そういう意味です。

ありがとうございます。

○池谷分科会長 質疑・意見を打ち切り、討論を許す。(なし)

◇採決の結果、議第1号「平成31年度焼津市一般会計予算案」中、交流推進部所管部分は全会一致、原案のとおり可決すべきものと決定

○池谷分科会長 以上で交流推進部所管の議案の審査は終了した。

以上で当分科会に付託されていた議案の審査は終了した。

これで予算審査特別委員会建設経済分科会を閉会とする。

開会(10:04)